

西海 No.1

メタデータ	言語: ja 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2001359

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



西海

せいかい

1

No.

2006.3

東シナ海の海と魚 No. 1

お魚紹介 トラフグ



水産総合研究センターイメージキャラクター「ぷいっくん」

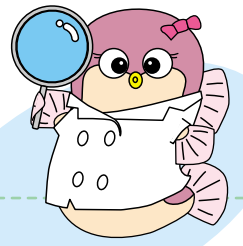


トラフグ *Takifugu rubripes* (Temminck and Schlegel) フグ科

体の背側は暗黒色で、腹側は白い。胸びれの後方に白く縁取られた大きい黒斑があるほか、体側に小黒色斑が散在し、尻びれが白いのが特徴です。北海道南部以南から日本周辺の沿岸、朝鮮半島西岸、黄海、東シナ海に分布します。寿命はおよそ10年です。産卵期は3～6月で、産卵場は天草周辺、島原、関門海峡、瀬戸内海、若狭湾、伊勢湾口部、石川県の七尾湾のほか秋田県沿岸などにあります。標識放流調査の結果から、親魚は毎年同じ産卵場に回遊すると推定されています。生後1年で全長29cm、2年で38cmになり、最大で75cmに達します。全国の漁獲量（一部推定値を含む）は、1980年代には約2,000～3,000トン程度ありましたが、2004年には500トン程度に減少しています。全国15の県で人工種苗が生産されており、約200万尾（2003年）の稚魚が放流されています。肉、皮、精巢（シラコ）は無毒ですが、卵巣と肝臓等の内臓には強い毒があります。

お知らせ

当研究所では広報誌として昭和44年から西海区水産研究所ニュースを発行してきましたが、平成17年3月の111号をもって廃刊させていただきます。平成17年度から新たな研究調査情報誌として「西海」を発行していくこととしました。この「西海」では、九州・沖縄地域の海や魚等に関する当研究所の研究調査情報を、迅速に関係機関の方々にお知らせする考えです。内容としまして、各研究部門における研究調査に関するトピックス、調査船による調査や各種の調査に関する情報のほか、東シナ海域における魚や沿岸の貝類・海藻類、海洋に関する紹介記事等で構成する考えです。今回の第1号では、海区水産業研究部と東シナ海海洋環境部の研究トピックスを掲載しましたが、第2号では、東シナ海漁業資源部と石垣支所におけるトピックスを掲載する予定で、その後は各部・支所のトピックスを順次掲載していく計画です。「西海」は年に4回発行する予定です。今後さらにに良い情報誌としていきたいと考えておりますので、ご意見、ご要望等がありましたら西海区水産研究所までお寄せ下さるようお願い致します。



水産総合研究センターイメージキャラクター「ふーちゃん」

有明海奥部に貧酸素水塊発生 広域連続観測の実施

有明海奥部で発生する貧酸素水塊がアサリ、サルボウ、タイラギ等の大量斃死との関係が懸念されています。このため、平成16年度から水産庁と環境省が予算措置を講じ、農林水産省九州農政局もデータ提供に協力して、3省庁が共同観測を実施しました。この結果、有明海奥部及び諫早湾でそれぞれ貧酸素水塊が発生することが明らかになりました(図1)。

平成17年度も、西海区水産研究所が水産庁及び環境省の委託を受けて、有明海奥部の14地点の海底直上層に自動観測装置を設置し、6月1日～9月27日まで有明海奥部底層の環境を連続観測しました(図2, 3)。この内、7観測点の観測データをDoPa通信システムを用いて収集し、ホームページを通じて有明海奥部における貧酸素水塊の発生状況を速報しました(図4)。

(海区水産業研究部 有明海・八代海漁場環境研究科)

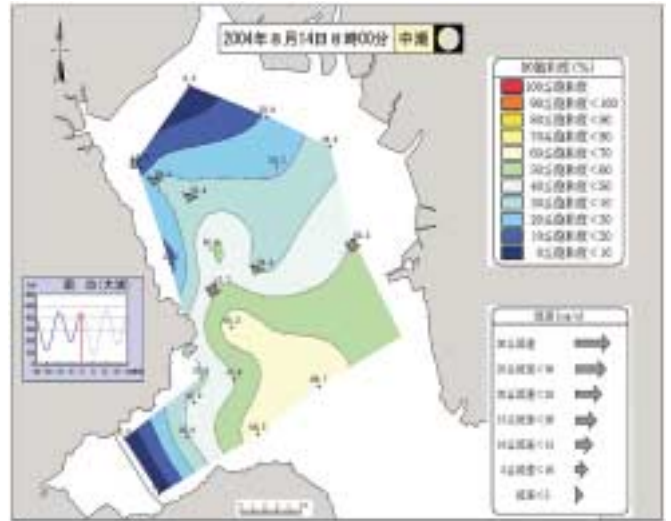


図1 有明海奥部底層の貧酸素水塊の分布例
(2004年8月14日)

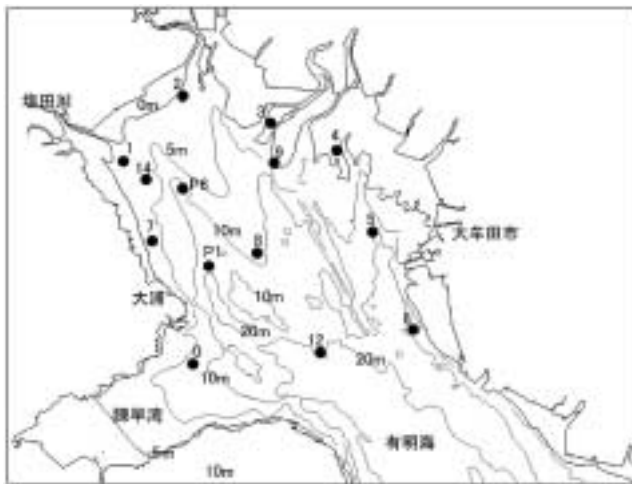


図2 有明海奥部の連続観測地点

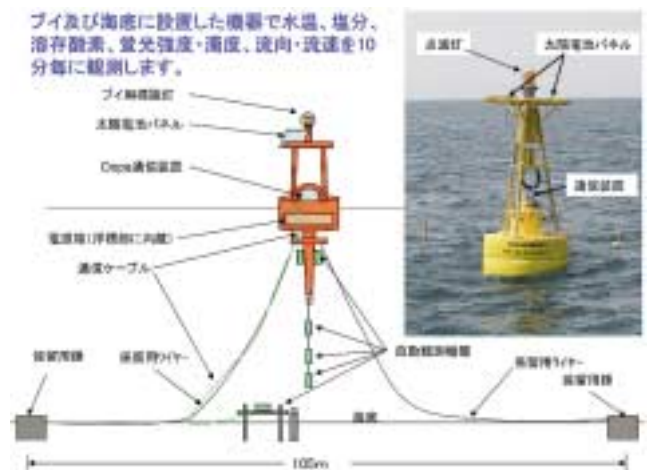


図3 観測点P1に設置した観測用ブイ



図4 有明海貧酸素水塊広域連続観測ホームページ
(<http://www.ariake-do.jp/ariake/>)

東シナ海にエチゼンクラゲが出現

近年、成長すると傘の直径が1mを超すエチゼンクラゲ (*Nemopilema nomurai*) が日本海沿岸へ頻繁に出現するようになり、沿岸漁業に大きな被害がでています。エチゼンクラゲは長江河口域周辺や黄海の沿岸で発生し、成長した後に日本沿岸域へ到達すると考えられていますが、その移送過程は不明です。そこで、移送経路と思われる東シナ海北部のエチゼンクラゲの分布を調べるために水産総合研究センター所属の漁業調査船、陽光丸による調査航海を2004年および2005年の夏季と秋季に実施しました。

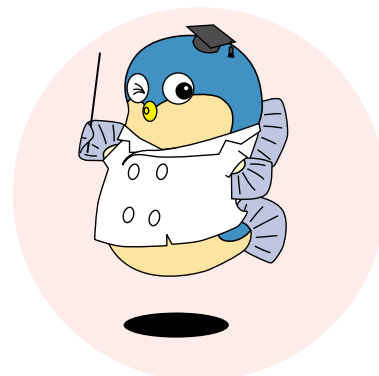
エチゼンクラゲが出現したのは、比較的低塩分・低水温の海域であったことから、エチゼンクラゲが長江河口域や黄海沿岸で発生し、移送されていることが示唆されました(下図の緑色の地点が低塩分水の分布海域。オレンジ色の地点は高塩分水が分布)。また、調査海域の西側から東側(対馬周辺海域)に向けて体のサイズが大きくなる傾向にあり、エチゼンクラゲが移送される間に成長していることが推察されました。

来年度は、春季～秋季の東シナ海大陸棚域のエチゼンクラゲの分布実態を広範囲に把握するとともに、生息環境を物理、化学、生物学的観点から調査する予定です。

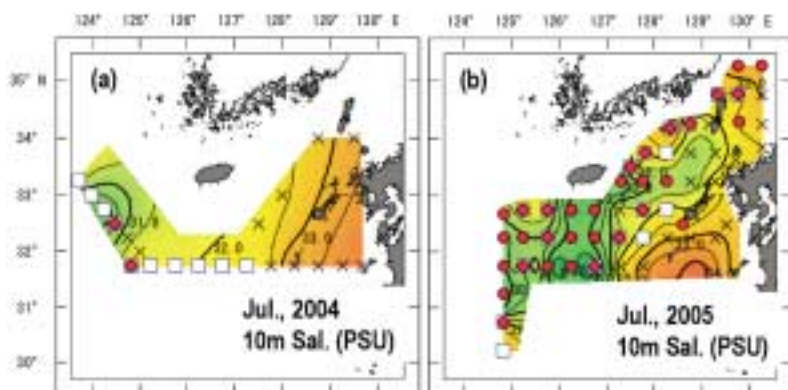
(東シナ海海洋環境部 高次生産研究室)



海中を漂うエチゼンクラゲ(推定傘径約50cm)
最大で傘径2m、重量200kgに到達します



採集したエチゼンクラゲ(傘部)
傘径と重量を測定し、分布特性や成長過程の推察を行いました。



2004年7月(a)と2005年7月(b)のエチゼンクラゲの出現状況および10m水深における塩分の水平分布[●:出現有(目視)、○:出現有(ネット採集)、×:出現なし)]エチゼンクラゲは低塩分水の分布に添うように出現しました。

第3回ながさき水産科学フェア

開催報告

～見に来んね！海と魚の不思議な世界～

独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所、長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター、長崎県総合水産試験場をつくる長崎水産研究機関三機関連絡会議では、去る10月23日（日）に三機関の概要および研究内容を県民の方々をはじめ水産関係者に広く理解していただくこと、ならびに、我が国の将来を担う子供たちに水産とその科学を知

っていただくことを目的として、施設の一般公開を開催しました。また、今回は新たな取り組みとして、来場者との双方向のコミュニケーションを目的にサイエンス・カフェも開催しました。フェア当日は天候にも恵まれ620名のご来場をいただき、盛況のうちに終了いたしました。

ご来場ありがとうございました。

（企画連絡室）



調査船陽光丸船内公開



タッチプール



サイエンス・カフェ

平成17年度調査船運航状況

調査名	調査船名	調査期間	調査海域	調査担当研究室
浮魚産卵調査（ ）	陽光丸(西海区水研所属)	17. 4.11～ 5.2	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源生態研究室
粘質状浮遊物原因生物調査	しらふじ丸 (瀬戸内水研所属)	17. 4.11～ 4.15	有明海	海区水産業研究部 有明海・八代海漁場環境研究科
九州周辺海域漁場環境調査（ ）	陽光丸	17. 5.10～ 5.2	東シナ海	東シナ海海洋環境部海洋動態研究室
中層トロール網を用いた浮魚類の魚群量調査	陽光丸	17. 6. 3～ 6.1	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源評価研究室
九州周辺海域漁場環境調査（ ）	陽光丸	17. 6.23～ 6.2	東シナ海	東シナ海海洋環境部海洋動態研究室
東シナ海低次生態系モニタリング調査（ ）	陽光丸	17. 7. 8～ 7.2	東シナ海	東シナ海海洋環境部高次生産研究室
日本海クロマグロ初期生態調査	陽光丸	17. 7.29～ 8.	田本海	遠洋水産研究所
計量魚探による浮魚類魚群量調査	陽光丸	17. 8.24～ 9.1	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源評価研究室
東シナ海大陸斜面域の底魚資源生態調査	陽光丸	17. 9.22～ 10.	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源生態研究室
イセエビ・ウナギ類の移送過程における生態調査、及び沖ノ鳥島周辺の200海里内沿岸資源調査	俊鷹丸(遠洋水研所属)	17. 9.28～ 11.	太平洋	海区水産業研究部沿岸資源研究室
東シナ海低次生態系モニタリング調査（ ）	陽光丸	17.10.31～ 11.11	東シナ海	東シナ海海洋環境部高次生産研究室
中層トロール網を用いた浮魚類の魚群量調査	陽光丸	18. 1.13～ 1.19	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源評価研究室
東シナ海低次生態系モニタリング調査（ ）	陽光丸	18. 1.25～ 1.30	東シナ海	東シナ海海洋環境部生物環境研究室
浮魚産卵調査（ ）	陽光丸	18. 2.20～ 3.13	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源生態研究室
簡易型トロール網によるマアジ幼稚魚分布調査	第7開洋丸 (日本海洋株式会社所属)	17. 4.18～ 5. 3	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源生態研究室
底魚類現存量調査	熊本丸(熊本県所属)	17. 5.10～ 6. 3	東シナ海	水産総合研究センター開発調査部
沖ノ鳥島周辺漁場生産特性調査	第7開洋丸	17.11. 4～ 11.18	太平洋	石垣支所資源増殖研究室
東シナ海・黄海底魚類資源調査	第7開洋丸	18. 1.30～ 2.24	東シナ海	東シナ海漁業資源部資源生態研究室
マアジ仔稚魚餌料生物調査	湘南丸(神奈川県所属)	18. 3. 3～ 3.18	東シナ海	東シナ海海洋環境部高次生産研究室

印は用船調査